

# うきたむ

第50号  
2017.12.10

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585

FAX 0238 - 52 - 4665

URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲三号墳を模した盛土の上で

## 発掘調査挿話Ⅲ エピソード ～安久津古墳群～

(公財) 山形県埋蔵文化財センター

伊藤 邦弘

今を遡ること二十六年前の平成三(一九九二)年四月、私は発掘調査のため、少し肌寒さが残る、春まだ遠い乾いた水田の上に立っていました。小高い山々に囲まれ、森閑とした八幡神社の三重塔が望めるこの地には、二年後に山形県内初の考古資料館である、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館が開館することになります。

発掘調査を行った遺跡は「安久津古墳群」の三号墳と四号墳です。古墳といえば、こんもりとした姿をイメージしますが、三号、四号墳はすでに削り取られていて平らな水田になっていました。古い字切図を手掛かりに試掘調査を行い、おおよその位置は確認されていましたが、本当に古墳を見つけることができるか不安を抱えての調査開始でした。

調査の結果、水田を三十七センチ程掘ったところから、古墳を作った時に盛ったと思われる土の痕跡がわずかに見つかり、三号墳の位置を確認しました。四号墳では盛土は見つからなかったものの、古墳の周囲に廻らせたと思われる溝が見つかりました。この溝からは、土師器や須恵器などの土器が出土しました。

現在、資料館のロビーからは、三号墳を模した盛土が見られます。また、四号墳は資料館入口付近にあたります。周溝から出土した土器は、常設展示で見ることができます。

考古資料館は、山形県埋蔵文化財センターと同じ年なので、来年度開館二十五周年を迎えることと思います。四半世紀も前の事ですが、資料館を見れば思い出す開館前の出来事でした。

これからも考古資料館と共に山形県の文化財を護り、伝える役割の一端を担っていききたいと思っています。(当館運営協議会委員)

## 企画展講演会

木と生きるく弥生・古墳時代の木製品

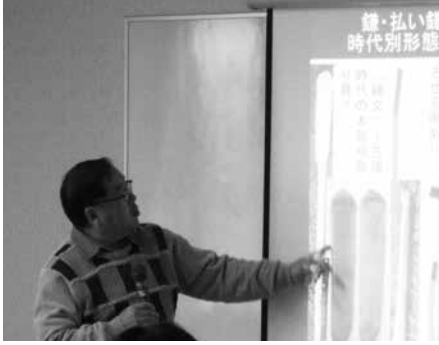
### 「実験で検証する弥生・古墳時代の木製品」

平成29年11月19日(日)

今年度は山田昌久先生の「実験で検証する弥生・古墳時代の木製品」の演題で企画展講演会が開催されました。

最初は農具についてのお話でした。鍬の裏に付けた板は実験の結果「泥除け」としての効果が極めて大きいこと、しかし、

従来考えられてきたものの取付法では固定できず、実際は反対にする必



▲企画展記念講演会 山田 昌久 氏

要があることが判明したとのこと、また、そうすることにより、「泥除け」が「泥受け」にもなることが分かったという実験の成果に触れられました。

数値で示されました。休憩時に今回の企画展で展示している西沼田遺跡の紡織具の解説と渡辺淑恵さんによる機織りの実演と復元の根拠についての山田先生の解説が行われました。

後半は斧と木材加工・利用法についてのお話でした。弥生時代の鉄斧は石斧と同様柄の穴に差し込む方式で、古墳時代には柄の袋に斧を入れる方式が出現し、現在のよう

よる成長変化などのお話がありました。

日本では縄文時代には径十五センチ以上のものは特殊な例を除き木材資源とはならなかったのですが、弥生以降は大径の針葉樹は楔割り製材、やがて中径の針葉樹は大鋸引き製材、広葉樹の小径木は丸木として、森の木



▲古代機実演 渡辺 淑恵 氏

## 第XII期 うきたむ学講座

今年も様々な視点で置賜の歴史を見て行きます

【第1回】1月14日(日)

「置賜で活躍した仏師たち―白鷹町の調査事例から―」

石井 紀子 氏

「置賜の仏像と醍醐寺の関係―高島町・大聖寺を中心に―」

石井 智也 氏

【第2回】2月17日(土)

「地域の歴史をつくる―『清水町の歴史とくらし』の

刊行から―」

佐藤 庄一 氏

【第3回】3月4日(日)

「犬の宮伝説―村人を救った三毛犬、四毛犬―」

鳥海 隼夫 氏

「近世後期の米沢の文学」

石黒 志保 氏

考古資料館にて

各回13時30分から

(詳細はお問い合わせください)

第十九期

# 考古学セミナー

平成29年9月24日 / 10月8日 / 10月22日(日)

今回は「弥生・古墳時代の木製品」と題して、全三回開講し、今回の企画展をより深く理解する機会となりました。以下に内容をご紹介します。

## 「展示資料解説」



(当館) 伊藤純子

弥生時代の古墳時代の木製品は、大変多彩です。縄文時代からみられる道具に加え、農耕や機織の道具が新しく加わります。特に農耕に関わる道具は多彩で数も多く、人々の活動の大きな部分を占めていたことがわかります。

解説では、展示を通して「木」から人々の生活の変化を感じていただきました。

「弥生・古墳時代の木製品の概要」



(当館) 渋谷孝雄

今回の企画展では「住まい」「食料の獲得」「容器」「衣・装・調・祈」の四種に木製品を大別して展示しています。講義では、それぞれのジャンルごとに、当期の木製品について概要を述べました。

「仙台平野の弥生時代木製品が出土した遺跡」  
「仙台平野の弥生時代の木製品」



(仙台市教育委員会) 荒井格氏

はじめの講義では富沢遺跡、中在家南遺跡、押口遺跡、高田B遺跡など、仙台平野で弥

生時代の木製品が出土した遺跡の概要についてお話しいただきました。

次の講義では、主に中在家南遺跡と高田B遺跡から出土した弥生時代の木製品について、その種類と生産技術の特徴から、仙台平野の弥生時代の特質について述べていただきました。

「服部・藤治屋敷遺跡の調査と古墳時代木製品」  
高桑弘美氏  
(公財) 山形県埋蔵文化財センター



服部・藤治屋敷遺跡の発掘調査の概要と、企画展でも展示した、藤治屋敷遺跡の木製品を中心に、古墳時代の木製品について述べていただきました。

「板橋2遺跡の調査と古墳時代木製品」



(公財) 山形県埋蔵文化財センター 齋藤健氏

板橋2遺跡に加え、近隣の板橋1遺跡、蔵増宮田遺跡の成果も含め、お話をいただきました。調査の概要とそれぞれの遺跡から出土した木製品の事例について、詳しく発表していただきました。



▲考古学セミナー 高桑弘美氏

### 絶賛頒布中!

「木と生きる」  
〜弥生・古墳時代の木製品〜



今年度開催の、第二十五回企画展「木と生きる」弥生・古墳時代の木製品」の展示図録です。

昨年度に続き、発掘されることの少ない木製品を通して、弥生・古墳時代の人々が木をどのように利用していたのか、木と人々の暮らしを探ります。

展示遺物を全点収録。詳細は、当館までお問い合わせください。

目次

序章	木と生きる
第一章	住と木工
第二章	食料の獲得と加工
第三章	容器
第四章	衣・装・調・祈
遺跡紹介	

頒布価格 1,500円

## 日向洞窟遺跡

高畠町 ● 縄文時代草創期

日向洞窟は、白

竜湖東側の丘陵のふもとにあります。

第Ⅰ洞窟、第Ⅱ洞窟の二つの洞窟と、第Ⅲ岩陰、第Ⅳ岩陰の二つの岩陰で

えられています。

日向洞窟から見つかった土器のうち、最も古いものは、縄文時代草創期の「隆起線文土器」と呼ばれる土器片です。隆起線文土器は、土器の口縁部や胴の上部に

粘土紐をめぐらせた土器で、長崎県福井洞穴で細石刃と共伴したことから、旧石器時代から縄文時代の移行期のもので、長い間日本最古の土器とされてきました。その後研究が進み、さらに古い時代の土器があったことがわかっています。

構成され、中心となる第Ⅰ洞窟からは、縄文時代草創期から奈良・平安時代の遺物が見つかっています。特に縄文時代草創期の土器の発見は、縄文時代に「草創期」という時期区分が新たに設定されるきっかけともなった遺跡です。近年も、洞窟西側の平地部分に当たる日向洞窟遺跡西地区などの発掘が行われ、草創期としては最大の規模を持つことが明らかになりつつあります。

日向洞窟が利用されるようになったのは、約一万二千年程前のことと考

は、石器を製作した跡が見つかりました。縄文時代草創期のものと考えられ、様々な種類の石器が作られていたことがわかっています。

二〇一三年から東北芸術工科大学により、発掘調査が継続され、新たな成果があがっています。また、二〇一五年からは、高畠町教育委員会による追加指定のための範囲確認もはじまっています。日向洞窟遺跡の全体像を知ることができる日も遠くないと思われる

です。

▲ 日向洞窟



## 我が館の展示品 (38)

### 琴柱形石製品

古墳時代前期

● 河北町 下槇遺跡

河北町の下槇遺跡、古墳時代前期の集落跡から、二つの小さな琴柱形石製品が出土しました。

琴を支える琴柱に似ていることからこの名前がつけられました。祭祀に使われたとされていますが、お守りのような物であった可能性もあります。



▲ 琴柱形石製品

細かい造形、掘り込まれた文様など、高い技術があつたことがうかがえます。

### くん蒸作業に伴う臨時休館のお知らせ

12月18日(月)から12月23日(土)にかけて、保管・展示資料を虫害・カビ等から守るための「くん蒸」作業を行います。

それに伴い、この期間は休館とさせていただきます。ご了承ください。

